

平成27年3月22日

自己評価による自己点検・学校関係者アンケートの結果を受けて
(世田谷区立八幡中学校 自己評価報告書)

I 分掌の課題と解決に向けての取組

1 教務

(1) 学習指導について

ア生徒の日常の授業の理解度と教職員の授業の工夫・改善への取り組みについては、肯定的評価が3年連続で80ポイントをこえている。「わかりやすい授業」については、生徒では87ポイントと高い数値となった。基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得について、今後も継続していく。

イ通知表の評価は納得できるについては、昨年度より肯定的評価上昇している。生徒で77ポイント、保護者で72ポイントであった。今後も資料に基づき適正にまた丁寧に行っていく。

評価を適正に行っているにもかかわらず、納得できない生徒が少なからずいることは理解している。丁寧な説明を、また回数を重ね責任を果たしていく。

- (2) 学校行事について教員は意欲を大事にした指導をしている。生徒も意欲的に取り組んでいる。「楽しみにしている学校行事がある」については、生徒の肯定的評価が88ポイント、保護者が91ポイントと非常に高かった。時間的な制約が多い中で今後も生徒が自主的な活動をしやすい環境をつくり、意欲を伸ばす努力を重ねていく。

2 生活指導

- (1) 保護者、地域ともに「子どもたちについて問題となる行動が少ない」の肯定的評価が92ポイントとなった。生徒の「わたしは学校のきまりを守って行動している」という項目も上昇している。生徒自身の意識の高まりが行動に表れ、家庭と学校で共通した指導ができた結果であるのではないかと引き続き連携してやっていきたい。

- (2) 「先生に指導されたことは納得ができる」「先生はいつも熱心に指導してくれる」では肯定的評価は高い。それに対して、「先生は誰に対しても公平である」では低い評価である。生徒個々に合わせた指導を行っているため、生徒からは公平に見えていない部分もあるのではないかと考えられる。指導方法の違いがあっても、一貫した指導を通じ、理解を図りたい。また、教師が自分の話を聞いてほしいとの願望の表れとも考えられるので、機会をとらえ、個々に応じたきめ細かい指導を引き続き進めていく。

- (3) 学校の安全性については、肯定的評価が低い項目がある。

校舎など、必要なところは区へ申請し、修繕していく。また、耐震工事は完了しているので広報活動を行い保護者の理解を得る。

今年度引き渡し訓練など区の方針にしたがい実施したため、災害時の保護者への

周知などの項目は大幅に上昇した。今後も見える形で情報提供を進めていきたい。

3 進路指導

1. 進路指導（キャリア教育）について

- (1) 子どもに将来の生き方や進路について考えさせる指導の項目については保護者の肯定的評価は大幅に上昇した。生徒は学年が上がるにつれて上昇した。低学年では進路が身近なものに感じられないためであると考え。低学年でも身近なものと考えられる進路指導を行う。
- (2) 将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分にある、という項目については保護者は大幅に上昇したが、生徒はやはりこの項目も学年が下がるにつれて肯定的評価も低い。1年生では、担任と相談する内容が生活面に偏りがちであると考え。生徒には生活面の相談もキャリア教育に含まれるという考え方を折に触れ話していく。
- (3) 保護者においては、教員は親身になって相談にのっているという項目の肯定的評価が下がった。中学校では、進路相談の際、最悪の事態を想定して相談を行うため、生徒や保護者の希望と違うアドバイスになり、親身になっていないという評価になる。日頃から親切、丁寧な対応を心掛け、保護者の信頼を得る努力をする。

II 学年の課題と解決に向けての取組

1 年

(1) 学習面

現 状：学習習慣がまだ身についていない生徒が多少いる。

改善策：日頃の生活から努力する姿勢や、正しい学習習慣を示し続ける必要があると思われる。今後も継続して粘り強い指導が必要。

(2) 生活面

現 状：忘れ物、時間など基本的な生活習慣が身についていない生徒が多少いる。

改善策：日頃のその場での指導とともに、その都度考えさせることが必要。

注意するだけでなく、望ましい生活態度をこちらから示していくことも必要。

全体だけでなく、個への指導も必要だと思われる。

(3) キャリア教育（職業調べ・職場訪問）

成 果：ほとんどの生徒が、訪問先を自分たちで見つけることができた。

今年度は、学校周辺の事業所を訪問する生徒が多かった。

事業所からは全体として高い評価をいただいた。

課 題：当日までの指導をよりていねいに行う必要がある。

社会性の足りなさを感じる生徒もいた。

(4) 学年行事（移動教室・レク大会・百人一首大会など）

成 果：移動教室は、お互いの関係づくりの場となった。親睦を深められた。

レク大会・百人一首大会はよくできたと思う。ある程度生徒主導ででき、リーダーも育ってきた。

今後も「自分たちでつくりあげる」という気持ちを大事にしていく。

(5) 学校行事 (運動会・学発)

成 果：はじめはまとまりがなかったが、最後はまとまってできた。

課 題：中心となる生徒はもちろん、周りの生徒の成長を期待したい。

(6) その他

成 果：教員がていねいに対応してきたため、生徒たちとの信頼関係を築けたように思う。

課 題：個別の指導が必要な生徒がいるため、今後も粘り強く、心に訴える指導が必要である。

2 年

(1) 学習指導面

「授業の内容はよく理解できる」に対して、生徒は他学年より肯定的な意見が多い。実際に、学力は定着し始めた。また、都・区のテストの結果は昨年より大幅に上昇した。

(2) 進路指導面

「進路について十分な情報提供がされている」に対して、保護者の肯定的な意見が少なかった。進路指導がキャリア教育であり、進学指導だけではないこととの違いを明確に説明し、情報をわかりやすく提供したい。

3 年

○学習面

- ・概ね努力していた。ゆっくりではあったが、3年間で力を伸ばした。
- ・最後まで意欲が落ちなかった。入試後も欠席する生徒もいなかった。
- ・提出物については、全般的には改善した。
- * 生徒たちの能力や集団の雰囲気にもよるが、丁寧に指導をしていく。

○生活面

- ・大きく乱れる生徒はいなかった。
- ・やるべき時にはしっかりやろうとする姿勢があった。下級生に良い見本を示せた。

○進路指導

- ・関係者評価で、保護者において、教員は親身になって相談にのっているという項目の肯定的評価が下がった。より丁寧な教員の対応を心掛ける。

○行事

- ・最上級生という自覚をもって、熱心に取り組んでいた。
- ・交流給食や行事で、A B組とC組との交流も和やかにできた。

C組

○学習面・生活面

現状

昨年度の反省を生かした学級経営を心がけ、比較的落ち着いた環境の中で授業に取り組ませることができた。①生徒個々のしょうがい特性、問題行動を把握した上

で見通しをもった指導を心がけたこと、②保護者との連携、支援員、介添え員を含めた支援体制づくりの充実、③地域ボランティアの協力などが理由として挙げられる。

しかし、①生徒のパニック、②対人関係によるトラブル、③重度の障害の生徒の対応、④保護者対応などの課題は引き続いている。

成果

- ・多くの行事で一定の成果が見られた。演奏や作品完成度など、例年並みの仕上がりで発表できた。
- ・5年目をむかえた学習ボランティアの支援で、買い物学習、調理実習、校外学習などを安全に、より手厚く、充実した内容で実施することができた。
- ・ICTの活用など生徒の実態に合った授業を行い、生徒を授業に集中させ、情操面やコミュニケーション能力を高めた。
- ・産業能率大学との交流ができさまざまな人と交流できた。

Ⅲ 学校の課題と解決に向けての取組

1 地域とともに子どもを育てる教育

- (1) 肯定的評価は昨年同様に高かった。さまざまな機会を通して広報活動を図っていく。ホームページの充実については、地域の評価は上がったが、迅速なUPを心がけていく。

2 信頼と誇りの持てる学校づくり

- (1) 学校運営・学校経営に関して、教員の肯定的評価は高い。さまざまな教育活動に対し、今後も迅速に対応を進める。
- (2) 教職員の服務規律や相互の関係など、肯定的評価は高い。安全管理について、やや否定的な評価も見られる。防災・防犯面、それぞれに具体的な対策の検討を続けていく。
- (3) 出納・経理、文書・情報管理については肯定的評価が高く、説明責任に堪えられる学校運営となっている。今後も着実に執行していく。